

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/10/03

金融市場全体のムードを探る

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	豪日共に独自材料に乏しい 予想レンジ: 74.000 ~ 80.000 円	2 - 3
NZドル/円	↘	リスクオンでも上値は限られる 予想レンジ: 71.000 ~ 76.000 円	4 - 5
ランド/円	↘	南ア国内の不安再燃に注意 予想レンジ: 6.500 ~ 7.700 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

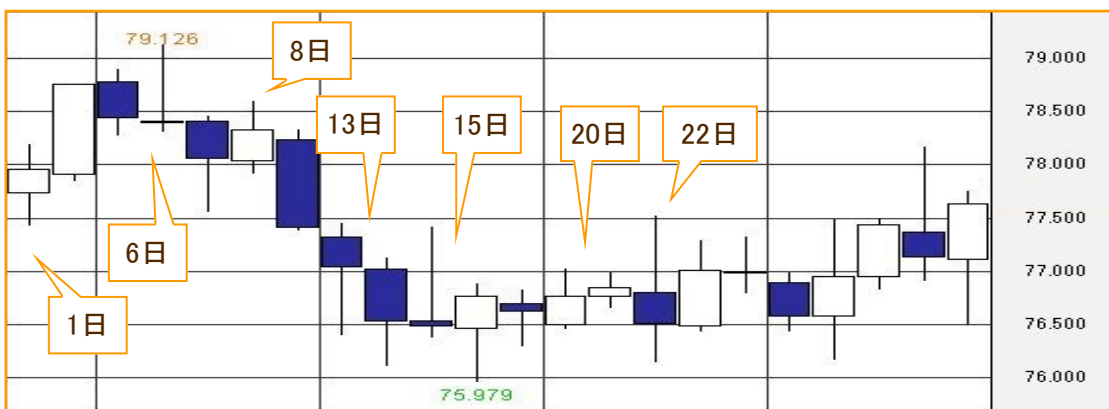
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 9月の推移

AUD/JPY

9月の豪ドル/円相場は75.979～79.126円のレンジで推移。月間の終値ベースではほぼ横ばいとなった。

豪中銀(RBA)が金融政策を当面据え置く姿勢を改めて示す中、9月の豪ドルは主体性に乏しい動きだった。前半には米国の早期利上げの可能性を受けた主要国株安や原油安が重石となって軟調に推移したが、中旬はほとんど方向感が出なかった。ただ、月末にかけては、石油輸出国機構(OPEC)の非公式会合で生産上限について合意に至った事から原油価格が上昇し、これを手掛かりに月初の下げ幅を縮める様子が見られた。



四本値

OPEN	77.740
HIGH	79.126
LOW	75.979
CLOSE	77.636

1日	豪7月小売売上高が前月比±0.0%と予想(+0.3%)を下回ると豪ドル売りが強まったが反応は一時的。その後、中国8月財新/製造業PMIが50.0と予想(50.1)をわずかに下回ったが、これ以前に発表されていた中国8月製造業PMIが50.4と予想(49.8)を上回っていた事もあって目立った反応は見られず、その後は全般的な円売りの流れの中で上昇した。
6日	豪中銀(RBA)は市場予想通り政策金利の据え置きを発表した。声明では「豪ドル高が経済的な調整を複雑化する可能性」「政策スタンスを変更しない事が持続可能な成長と時間をかけてインフレ目標を達成する事に一致すると判断」「インフレは非常に低いまま」「最近のデータは全体的な成長は持続している事を示唆」「住宅価格はここ1年で緩やかに上昇している」などの見方が示された。近い将来の利下げの可能性を示唆するような目新しい記述がなかった事から、発表直後の豪ドルはわずかに買い優勢となったが、反応は一時的だった。
8日	豪7月貿易収支が24.10億豪ドルの赤字と予想(27.00億豪ドルの赤字)より強い結果となった。また、中国8月貿易収支は520.5億ドルの黒字と予想(588.5億ドルの黒字)を下回り、輸出は前年比+1.5%(予想:-5.4%)、輸入は同-2.8%(同:-4.0%)となった。ただ、いずれも豪ドル/円相場の反応は限定的であった。
13日	国際エネルギー機関(IEA)が月報にて、原油市場の供給過剰状態が従来見通しより長引き、少なくとも2017年前半まで続くとの見解を示し、NY原油が下落。NYダウ平均も大きく下げた事もあって豪ドル/円は76.123円まで下落した。しかし、日経新聞が、20-21日開催の日銀金融政策決定会合でまとめる「総括的な検証」について、今後の金融緩和の軸にマイナス金利の深堀りを据える方針であると報じた。これを受けて円売りが再び強まり、豪ドル/円は下げ幅を縮小した。
15日	日経平均が下げ幅を拡大した事で、豪ドル/円は75.979円まで下落。豪8月失業率が5.6%と予想(5.7%)を下回るも、就業者数が予想(1.50万人増)外の0.39万人減となった事も重石となった。しかしその後は円売り優勢に転じ、豪ドル/円は下げ幅を消した。
20日	RBAが理事会議事録を発表。「豪ドル高は貿易セクターを引き続き支援」「現在の政策スタンスはインフレ目標と一致している」「据え置き決定は5月、8月の利下げと最近の経済指標を考慮したもの」「豪ドル高は経済の調整を複雑化する可能性がある」という、目新しい点のない議事録で、近い将来の利下げを示唆するヒントがなかった事から、発表後の豪ドル/円はわずかに豪ドル買いに振れたものの、反応は一時的だった。
22日	ロウRBA総裁が「インフレ期待は当面の間低いだらう」「低金利は経済を支援し続ける」「追加利下げは可能」と発言すると、豪ドル/円は一時軟化。しかし、浅川財務官が「為替、過度な変動や投機的な動きは望ましくない」「投機的な動きが継続すれば必要な対応を取る」などと発言すると円売りが優勢となり、豪ドル/円は上昇した。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	16885.16
HIGH	17156.36
LOW	16285.41
CLOSE	16449.84

NYダウ平均

OPEN	18396.57
HIGH	18551.54
LOW	17992.21
CLOSE	18308.15

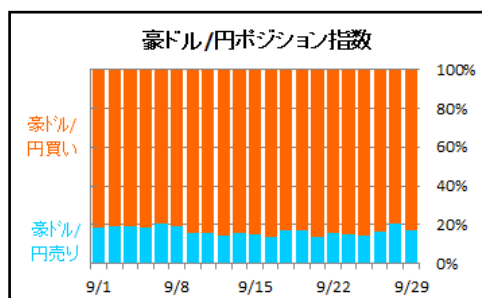
上海総合指数

OPEN	3083.961
HIGH	3105.677
LOW	2969.132
CLOSE	3004.703

豪10年債利回

OPEN	1.834%
HIGH	2.168%
LOW	1.825%
CLOSE	1.908%

9月のポジション動向



10月の豪州・中国の注目材料

- ・8月豪住宅建設許可(4日)
- ・RBAキャシュターゲット(4日)
- ・8月豪小売売上高(5日)
- ・8月豪貿易収支(6日)
- ・9月中国貿易収支(13日)
- ・9月中国消費者物価指数(14日)
- ・RBA議事録(18日)
- ・9月中国鉱工業生産(19日)
- ・9月中国小売売上高(19日)
- ・7-9月期中国GDP(19日)
- ・9月豪雇用統計(20日)
- ・7-9月期豪消費者物価指数(26日)
- ・7-9月期豪輸入物価指数(27日)
- ・7-9月期豪生産者物価指数(28日)

10月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

豪中銀(RBA)では9月18日付けでロウ副総裁が総裁に昇格した。ロウ新総裁は副総裁時代から利下げに対して慎重姿勢を示す事が多く、9月の就任後についても、追加利下げの可能性に言及しつつも近い将来にすぐに動く事を示唆する様子はみられていない。当面、RBAが政策変更を行う可能性は低いと言わざるを得ないだろう。こうした状況では豪州の経済指標が即座に金融政策の変更期待に結びつく事はなく、一時的に豪ドルを動かす要因となるに留まる公算が大きい。また、日本に関しても9月に長短金利操作付き質的量的緩和を決定したばかりで、10月31日から11月1日にかけて行われる日銀金融政策決定会合で動きが出る可能性は現時点では低そうだ。つまり、豪ドル/円に関しては目先、主体的に動ける要素があまりない事になる。10月の豪ドル/円相場は金融市場全体のリスクオン・オフを眺めつつ、方向感を模索する事になるだろう。米国の大統領選や、ドイツ銀行不安、英国の欧州連合(EU)離脱に関する不安など、リスク要因の火種は複数あり、これらの動向を確認しながら動く株価の動向等が主な手がかりとなりそうだ。(石川)

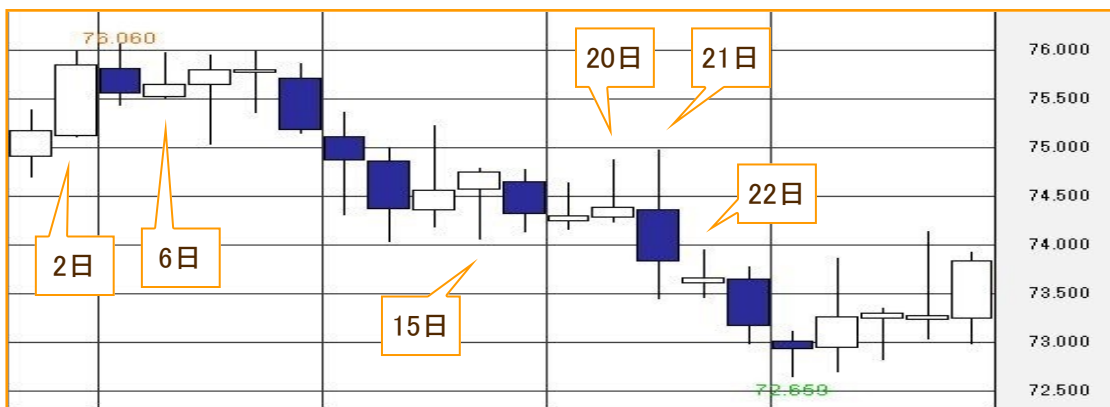
(予想レンジ: 74.000~80.000円)

NZドル/円 9月の推移

NZD/JPY

9月のNZドル/円相場は72.659～76.060円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.5%の下落(NZドル安・円高)となった。

月初は小じっかりで推移していたNZドル/円は、中旬以降は株安や原油安を受けて軟化。さらに、日銀会合後の円高や、NZ中銀(RBNZ)のウィーラー総裁のコメントから11月利下げ観測が強まった事もあり、NZドルは下値を切り下げて行く流れとなり、26日には72.659円の安値を付けた。



四本値

OPEN	74.909
HIGH	76.060
LOW	72.659
CLOSE	73.842

2日	米9月雇用統計が市場予想よりも弱い結果だった事を受けて米国の9月利上げの可能性が後退したと米株式市場で受け止められ、NYダウ平均が上昇するとNZドル/円は上昇した。
6日	NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数は前回比+7.7%と大幅に上昇したが、NZドルに目立った反応は見られなかった。
15日	早朝に発表されたNZ4-6月期国内総生産(GDP)が前期比+0.9%と予想(+1.1%)を下回るとNZドルは下落。日経平均の下げも重石となって一時74.069円まで値を下げた。しかし、その後は反発。米国の8月小売売上高や8月鉱工業生産が弱い結果で、NYダウ平均が上昇すると、プラスサイドに切り返した。
20日	アジア市場中からNY市場序盤にかけては堅調に推移したものの、NZ乳業大手フォンテラが電子入札GDTを行い、この物価指数が前回比+1.7%へ上昇。前回(+7.7%)から上昇幅が縮小した事からNZドル売りが強まり、NZドル/円は上げ幅を圧縮した。
21日	日銀が長短金利操作付き質的量的緩和を発表すると、金融株主導で日経平均が上昇し、それを眺めてNZドル/円も一時上昇。しかし、黒田日銀総裁が会見で外債購入を否定した事や、「国債買入は増『減』あり得る」などとコメントした事を受けて円買い優勢になると、NZドル/円も失速した。
22日	早朝にNZ中銀(RBNZ)は市場予想通り金利据え置きを発表。ただし、ウィーラーRBNZ総裁が「NZドル安が必要だ」「金融姿勢は引き続き緩和的である」などとコメントした事を受けて、NZドル/円は小幅に売られた。しかし、欧州市場に入り、欧州株が堅調な推移を見せると、NZドル/円は一時反発する様子も見せた。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	16885.16
HIGH	17156.36
LOW	16285.41
CLOSE	16449.84

NYダウ平均

OPEN	18396.57
HIGH	18551.54
LOW	17992.21
CLOSE	18308.15

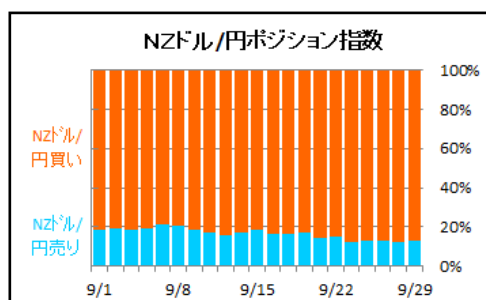
上海総合指数

OPEN	3083.961
HIGH	3105.677
LOW	2969.132
CLOSE	3004.703

NZ10年債利回

OPEN	2.231%
HIGH	2.612%
LOW	2.231%
CLOSE	2.266%

9月のポジション動向



10月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(4日、18日)
- ・4-9月期NZ消費者物価指数(18日)
- ・9月NZ貿易収支(27日)
- ・9月NZ住宅建設許可(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

10月の見通し

次回のNZ中銀(RBNZ)の会合では利下げとなるとの見方が市場では非常に強い。日本時間11月10日午前5時に発表される政策金利について、エコノミスト予想は0.25%利下げして1.75%とするとの見方が大勢で、10月月初の段階ですでに金利先物市場でも7割以上織り込まれている状態だ。10月中に発表されるNZの経済指標の結果次第で織り込み度合いに変化は多少生じ、NZドルを一時的に動かす要因になり得るが、よほど要人発言などで利下げが否定されない限り、NZ中銀の利下げ観測が極端に低下する事は考えにくいと言えよう。こうした中では、NZドルに積極的な買いは入りにくく、リスクオンの局面でもNZドル/円の上昇は他のクロス円に比べて限られる可能性が高い一方、リスクオフ時には値幅が他のクロス円よりも出やすいと見られる。ムードを確認しながら流れに乗りたいたいところだ。リスクオン・オフに大きく関わる要因としては、米大統領選挙に向けての民主党・クリントン氏および共和党・トランプ氏の支持率の動向や、ドイツ銀行の和解金支払いの問題、英国のEU離脱に絡む経済への影響等がまずは挙げられる。もちろん、その他リスク要因が浮上すればNZドル/円の下げのきっかけになり得るので、要注意だ。(石川)

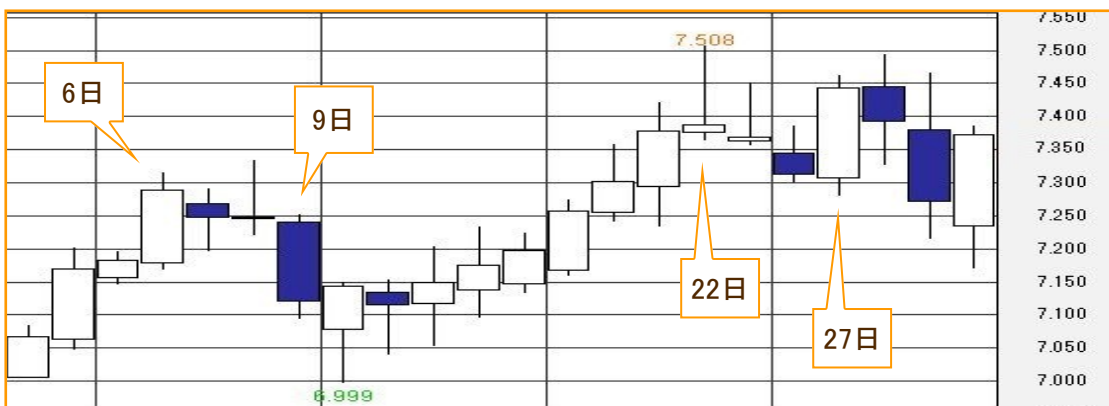
(予想レンジ: 71.000~76.000円)

ランド/円 9月の推移

ZAR/JPY

9月のランド/円相場は、6.999～7.508円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約5.0%の上昇(ランド高・円安)の推移となった。

8月のランドはゴードン財務相の警察出頭を巡る混乱の中で大きく値を下げたが、9月に入るとこの件についての進展がなかなかなく、さらに米国の利上げが大方の予想通り見送られた事への安心感などから、ランドの買戻しが目立った。南アの経済に改善の兆しが見え始めた事なども追い風となり、一時は7.508円まで値を戻す様子も見られた。



四本値

OPEN	7.007
HIGH	7.508
LOW	6.999
CLOSE	7.373

6日	南ア4-6月期国内総生産(GDP)が前期比年率+3.3%と予想(+2.6%)を大きく上回ったことからランド買いに拍車が掛かり、7.30円台まで上昇した。
9日	米国のローゼンブレン・ポストン連銀総裁が「緩やかな金利引き締めを正当化する妥当な根拠がある」「引き締め見送りの過剰な長期化はリスク」などと発言。これを受けて米早期利上げ観測が高まり、NYダウ平均が引けにかけて400ドル近く下落すると、ランド/円も大きく値を下げた。
22日	欧州株が堅調な中で円は全面的に売られ、ランド/円は7.508円の高値を付けた。なお、南ア中銀(SARB)が2016年のGDP見通しを±0.0%→+0.4%、2017年の見通しを+1.1%→+1.2%、2018年見通しを+1.5%→+1.6%へ上方修正。またクガニャゴSARB総裁が「世界市場のリスクは残っている」「2017年第2四半期にCPIが目標に戻ってくると支持」「南アランドによるさらなるリスクの可能性は低い」「南アランドによるCPIの上昇リスクは幾分和らいだ」「成長見通しのリスクはバランスが取れている」「全ての会合における決定はデータ次第」「トレンドが継続すれば利上げサイクルの終了も近いだろう」などの見解を示した後、政策金利の据え置きを発表した。市場予想通りで、南アランドの目立った反応は見られなかった。
27日	現地時間26日夜に開催された米大統領候補者討論会でクリントン氏優勢が伝えられると、「トランプ大統領実現リスク後退」と受け止められ、日本株が上昇。円売り主導でランド/円は値を上げた。

日経平均

OPEN	16885.16
HIGH	17156.36
LOW	16285.41
CLOSE	16449.84

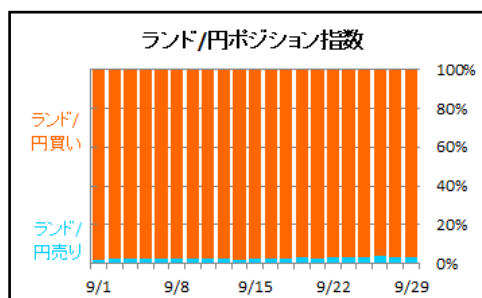
NYダウ平均

OPEN	18396.57
HIGH	18551.54
LOW	17992.21
CLOSE	18308.15

N Y 金

OPEN	1311.70
HIGH	1357.60
LOW	1305.50
CLOSE	1317.10

9月のポジション動向



10月の南アフリカの注目材料

- ・9月南ア消費者物価指数(19日)
- ・8月南ア小売売上高(19日)
- ・9月南ア生産者物価指数(27日)
- ・9月南ア貿易収支(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

10月の見通し

8月までの大きなランド売り要因となったゴードン財務相の警察出頭に関しては9月に入ると事態が膠着。また、南ア中銀(SARB)はGDP見通しを上方修正し、インフレ率も目標(3~6%)の上限まで低下してきている点が経済にとってプラスと評価された。こうした中で9月の南アランドは大きく押し上げられた。ただし、経済の回復についてはSARBの利上げ姿勢後退に繋がり、これはランド上昇要因の剥落に繋がる。また、ゴードン財務相を巡る政治の問題は棚上げされているだけに過ぎず、いつまた不安が再燃するか分からない。格下げリスクなども依然残る。ランド/円がリスクオンの際には堅調に推移する地合いは続く可能性はあるが、前述のリスクが再び意識されれば、大幅かつ急激に値を下げる事は想定してポジションを取るようにはしておきたいところだ。また、米大統領選に向けた各候補者の支持率動向や、ドイツ銀行や英国のEU離脱問題などのリスク要因もあり、これらが強く意識されれば、ランド/円にも影響が波及しよう。(石川)

(予想レンジ: 6.500~7.700円)